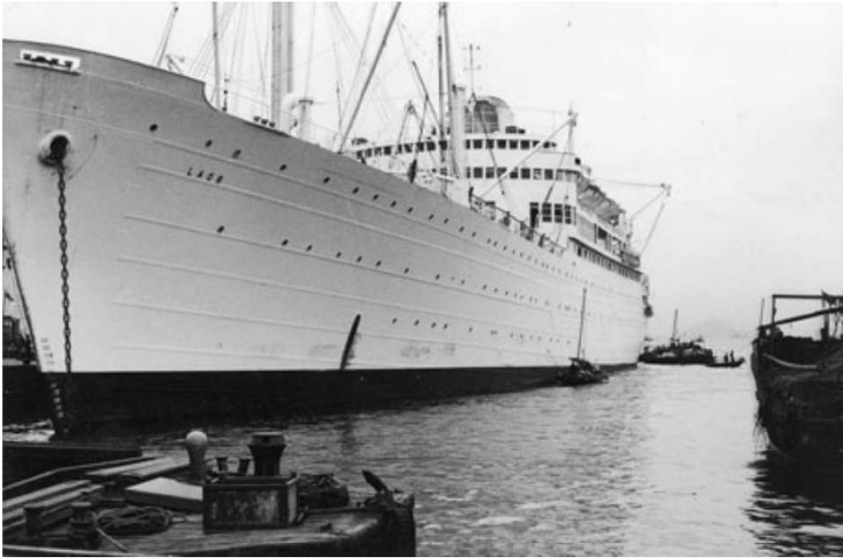


異文化交流の原点とは？

～33日間の船旅と西ドイツ一周研究旅行～



- 日 時： 2014年11月06日(木)
16:30～18:00 (開場 16:10)
- 会 場： Waseda Global Gateセミナールーム
(早稲田キャンパス22号館1階)
- 対 象： 早大生・教職員・一般
- 事前登録： 不要(先着順60席)
- 言 語： 日本語
- 参加費： 無料

東京オリンピックが開催された1964年。今から50年前に、4人の早大生が西ドイツ一周研究旅行を完遂。初めは自転車で、そして自動車へと乗り換えての5か月半にわたる研究旅行。加えて、33日間の往路の船旅、ソ連廻りの13日間の帰路。

およそ7か月半に及ぶ異文化交流の体験を通して、「異文化交流の原点とは何か」をお話していただき、さらに、その青春時代の異文化体験をどのように、その後の人生に活かして行かれたのかも語っていただきます。

留(遊)学や海外でのインターンシップを考えている人も、考えているけど最初の一步が踏み出せない人も、是非奮ってご参加ください！

ゲスト・スピーカー 瀧沢 敬三

1961年に早稲田大学第一文学部国史専修入学後、文化サークルの「ドイツ研究会」に入会し、同期4人仲間と共に西ドイツ一周研究旅行を完遂。帰国後、『若い目で見たドイツ』というタイトルで、研究旅行の報告書を刊行。1966年に卒業後、1967年から2003年の間、武蔵野美術大学勤務。美術資料図書館、広報室、国際部等を歴任。

ゲスト・スピーカー 佐藤 勝彦

1961年に早稲田大学第一理工学部電気通信学科入学。1966年に早稲田大学卒業後、三菱商事(株)入社。35年間同社在籍中に14年間、香港・スイス・ドイツ・英国に駐在。秀明大学教授、淑徳大学教授、多摩大学特任教授、立命館大学客員教授を歴任。現在、ブレーメン経済工科大学客員教授、日独協会理事。